

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

令和6年度学校評価 計画	学校名 みやき町立中原小学校	達成度（評価） A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目の半分で、最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって一年間取り組んだ成果である。令和6年度以降も、教職員の共通理解・共通実践のもと取り組んでいく。 ・ICTの利活用では、提案授業や研修を行ったことで、職員間の情報共有が進み、タブレット等の活用が進んだ。令和6年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップダイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、さらなるICT活用を進めていく。 ・平日夜の留守番電話設定やアリによるより早め連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校等時間がどの月でも前年度比マイナスとなった。令和6年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。 ・いじめや児童間のトラブルなど、担任等の早期対応や保護者連絡で重大化した事案はなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようしていく。 ・老人会や商工会の方々を講師に来ていただきたり、お仕事体験やスケッチ会で地域に出かけて学んだり、学校地域が連携・協働しながら子供たちの成長を支える機会を作ることができた。令和6年度も学校運営協議会の意見を伺いながら、さらなる連携・協働を進めていく。 	

E (評価)
十分達成できている
おおむね達成できている
やや不十分である
不十分である

2 学校教育目標
「心豊かで たくましく 自ら学ぶ 風の子」の育成
～ 自分大好き 友達大好き 学校大好き ～

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none">・ 豊かな人間性を育む。（思いやりのある児童）・ 健康・体力づくりを推進する。（健康でたくましい児童）・ 確かな学力を育む。（自ら学び考える児童）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標										中間評価		5 最終評価			主な担当者	
1)共通評価項目			重点取組		具体的な取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価					
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)					進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言				
●学力の向上	○主体的・対話的深い学びを目指した授業改善～「教える」「考へさせる」「習熟させる」のメリハリのきいた授業～	○主体的な学びの姿を引き出す授業づくりについて、ICTを活用しながら行う。○ICTが学習理解の手助けとなり、学習が分かれるようになったと答えた児童を全体の70%とする。			・全職員が提案する授業授業を「中・高学年で設定し、学校全体でICT活用した実践を100%共有する。・児童の「スキルアップタイム」を設定し、タイミングなどの基本的な操作方法を定着する。・教職員の実態に応じたICT研修を計画し、基本的な内容から応用的な内容まで学習できる機会を設ける。	B	・提案授業を随時行い、互いの授業を参考することで、職員のICT技能の向上が図られている。	A	・全職員が提案授業を行い、さらに、代表者の授業を参考し、研修を行ったことで、新たな活用方法を知ることにつながった。	A	・知識を広げることはできるが、思考力や表現力を高めるには難しい。社会に出で大切な人は人と交流をして、自分の考えを伝える力だから、コミュニケーション力を上げる取組を続けてほしい。	○まなび部・学力向上コーディネーター・研究主任	○まなび部・学力向上コーディネーター・研究主任			
	●児童生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uを2回実施し、1回目よりも2回目の学級生活満足群が高くなるようにする。○Q-Uの結果を学級づくりに活用し、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりする」と答えた児童80%以上にする。			・自他を認め、尊重する態度を育てるために、年に3回「光るところ見つけ」を実施する。「丁寧な言葉づかい」を1年間の生活のあての重点目標として、生徒指導協議会で情報共有が図る。	B	・1学期に各班の友達の、2学期に継続率の友達の「光るところ見つけ」を実施した。「丁寧な言葉づかい」について、月1回生徒指導協議会で情報共有ができる。	A	・2回目のQ-Uで、すべての学年において3～15%学級生活満足群が高くなった。	A	・挨拶をする児童が増えている。児童が楽しんで学校に通ってくれるように継続してほしい。	○こころ部・道徳主任・教育相談担当				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上			・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、いじめについての振り返り欄を設けていて、いじめの早期発見、早期対応に努める。	B	・「心のアンケート」に記入があった児童については、すぐに対応から聞き取りを行い、早期に対応することができている。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができると回答した教員は100%だった。(そう思う70%だいたいと思うう30%)	A	・早期対応、組織的な対応を継続していくことで、児童も安心して学校に通える。	○こころ部・生徒指導主任				
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学習や行事で自分で決めた目標に向かってがんばった」と回答した児童生徒80%以上			・各学習活動及び行事への見通しを通して取り組ませ、自分自身の取組みの過程や成長についての振り返りを行うことで自身を見つめる機会をもたらす。	B	・キャリアパスを活用し、学習や行事ごとのキャリアパスを振り返ることで、今後の学校生活に生かしたいという意欲につながっている。	A	・行事ごとに振り返りを行ったことで、自分の成長を振り返る機会となってきた。	A	・夢授業は中学校の職場体験とつながるとても良い機会になったといえる。地域からも講師として参加して、人生について語る良い機会となつた。	○まなび部・キャリア教育担当	○まなび部・キャリア教育担当			
	●児童生徒が夢や目標を持つ、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%			・「将来の夢や目標を持つ」として肯定的な回答をした児童生徒80%	B	・学級でほかほか言葉の指導やその言葉を校内外に掲示することで、相手を思いやる言葉遣いを意識できるようになってしまった。	A	・運営委員会の児童を中心呼びかけを行い、全校で丁寧な言葉遣いについて意識することができた。職員間でも相手を思いやる言葉遣いを意識して指導に取り組んでいく。	A	・丁寧な言葉遣いについて、できたときは大人がたくさんほめて、伸ばしていきたい。	○こころ部・道徳主任				
	○人権意識を高め、コミュニケーションの手段である言葉遣いに関する指導の充実	○言葉遣いについての振り返りを定期的に各学級で行う。			・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、言葉遣いについて振り返りの欄を設け、自分自身を振り返らせる。	B	・学級でほかほか言葉の指導やその言葉を校内外に掲示することで、相手を思いやる言葉遣いを意識できるようになってしまった。	A	・運営委員会の児童を中心呼びかけを行い、全校で丁寧な言葉遣いについて意識することができた。職員間でも相手を思いやる言葉遣いを意識して指導に取り組んでいく。	A	・丁寧な言葉遣いについて、できたときは大人がたくさんほめて、伸ばしていきたい。	○こころ部・道徳主任				
●健康・体つくり	次の中から1つ以上を選択	①運動習慣の改善や定着化	○健康に良い食事をしている児童生徒85%以上にするため		・給食の時間に電子黒板に配膳図を提示すると共に配膳カードを使用し、食事の形を意識が向くようにする。	A	・配膳図についてはほぼ100%の活用率である。給食時間の指導についての指導資料については「毎回『たまご』まで入れる」と86%のクラスが使用している。	A	・「簡単な調理ができる・少しできる児童」の割合が85%に下がった。それは、調理ができる基準が児童の中で上がり、出来ないことに気づいていたことによると思われる。	A	・児童の気づきが出てきたことはとても良いことだと思う。	○からだ部・食育担当	○からだ部・食育担当			
	②望ましい生活習慣の形成	③健康的な習慣と自分の自己管理能力の育成	④安全に関する資質・能力の育成	⑤健康を考えて行動できる能力の育成	・「バランスの良い食事の形が分かる児童」の割合87.9%～95%	A	・簡単な調理について、家庭科の調理実習後、家庭の協力を得て調理する機会を設ける。	A	・夏季休業中の課題として簡単な調理を宿題として出した。結果、98%の児童が課題に取り組み、保護者と健常にい食事について関心をもつことができた。	A	・日頃の給食を含めて食育が行われていることが家庭での取組につながっている様子が分かった。	○からだ部・食育担当				
	○体力向上の具体的実践	○県のスポーツチャレンジの参加学級、参加種目を増やす。			・クラブ活動でスポーツチャレンジに取り組んでもらえるように周知する。	B	・前期だけ28種目は達成しているものの、残りの種目は自由参加になっているので、周知して取り組み数を増やしていくといった。	B	・後期に達成数を増やすことができなかった。記録の入力の方法を全職員で確認し、各々努力してもらうようにする。	B	・縄跳びなど体力づくりにつながるような取組を体育の授業を使ってしてほしい。	○からだ部・体育主任				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1月に45時間、1年間360時間)を遵守する。			・勤務時間を意識した働き方とするために、放課後に打合せ等を設定しない。	A	・放課後の定期例会を開設し、必要最小限の打ち合わせをすることができている。	A	・標準時数を大幅に上回る学年について、授業時間の見直しを行った。そのことにより、放課後の時間は教材研究や成績処理に充てることができた。	A	・教職員の働き方改革については、社会から目を向けるようになってよかつた。私も体も健全に働く環境を整えてほしい。	・教頭	・教頭			
	○組織的な学校運営と教職員の連携促進	○時間を見越して校務に取り組んだ教職員80%以上達成。			・教職員の連携を促進し、各部会等の分掌事務について、効率化可能な校務を時短で実現できるようにする。	A	・勤務時間を見直して校務に取り組んだ教職員が95%を超えており、ワークライフバランスを考えて働き意識もつることができている。	A	・勤務時間を見直して校務に取り組んだ教職員が100%となり、中間評価よりさらに意識してワークライフバランスを考えて働く意識が高まつた。	A	・デジタル化が進むことは非常によいことだが、職員間の連携を怠らないようにしてほしい。	・教頭				
●特別支援教育の充実	○発達障害への理解と個別支援の計画的推進	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上			・児童理解についての生徒指導連絡会を月3回実施し、職員間での情報共有を行なう。	B	・生徒指導協議会を月3回実施し、生徒指導、教育相談、保健など情報を共有を行うことができる。	A	・スクリーニングを利用して低中高部会に分かれ、配慮を要する児童・生徒に係る内容を実施することができた。	A	・スクリーニングについて全ての児童に行なうことは継続してほしい。	・特別支援教育コーディネーター				

主な担当者

主任
相談担当

指導主任

教育应当

Page 1

18/27

1

10

35

指導主任

年度別実績評価結果と改善計画項目									主な担当者	
重点取組			具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数量目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○安全教育	○危機回避能力の育成と、安全指導の徹底	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成	・毎月、防犯ブザーの所持の確認を行う。 ・交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。	B	・防犯ブザーの所持率は84%と目標を下回っている。防犯ブザーを持つことで児童の抑止、危険目に会ったときに自分の身を守れることを伝え、所持率を上げたい。 ・事故の発生件数が減少したが、登下校時に登下校のルールを守らず危険性がいる。 ・それにより、一歩行動の意識が高まつた。 ・交通事故が0件という目標が達成された。	B	・防犯ブザーの所持率が76%と下がってしまった。 ・定期的な声かけ、家庭へのお願いが必要。 ・後期に職員で水曜の下校指導を重点的に行った。 ・それにより、一歩行動の意識が高まつた。 ・交通事故が0件という目標が達成された。	B	・下校時、声掛けが必要なくらい車道まで広がって歩いていることがあった。教職員の見回りがあると改善する。 ・交通事故0件は継続したい。	○からだ部 ・安全指導主任
○生徒指導	○凡事徹底	○「ていねいな言葉遣いで話す」「学校のきまりを守る」についてのめあてを達成した児童85%以上	・毎年実施する「心のアシケート」の項目に、「言葉使いを守っているかについてふり返る欄を設け、自分自身を振り返せる」。 ・生徒会室、児童のがんばりや活躍を紹介することについて、児童の意図の向上を図る。	B	・「心のアシケート」に左側の項目を追加したことで、担任が児童一人一人の意図を把握やすくなった。 ・毎月の生徒会室や活動会場で、各教室の表彰や行事等の取り組みなどについて、児童のがんばりを紹介することができた。 ・言葉遣いの項目では、高学年の自己評価が低かったが、全体で見ると目標を達成している。	A	・それまでの項目について、年次報評価のうち、3以上をつけている児童をめざして達成する。「ていねいな言葉遣いで話す」94%、「学校のきまりを守る」98%。 ・「言葉遣い」の項目では、高学年の自己評価が低かったが、全体で見ると目標を達成している。	A	・言葉遣いの指導には時間がかかると思う。家庭や地域でも同じように声掛けをしてみたい。	○こころ部 ・生徒指導主任
○学力向上	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」について「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・ぎ)について「守っている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。	・「学習のきまり」について、学校全体で共通理解をした上で、学年等で「今までして呼びかけを行った」「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・ぎ)を全校で共通理解し、落ち着いた気持ちで学習に向かわせるとして、学力の向上を図る。	B	・「学習のきまり」について、学校全体で共通理解することで全校で統一した指導ができるようになった。 ・「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・ぎ)をについて「守っている」と肯定的な回答をしている児童が90%おり、目標を達成していた。	A	・新年度当初に教員間で共通理解を図ることで、学校全体で「学習のきまり」についての認識を進行できてきた。また、来年度の学習のきまりを「良いものにしていく準備ができた」。 ・「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・ぎ)について「守っている」と肯定的な回答をしている児童が90%おり、目標を達成していた。来年度も引き続き取り組んでいきた。	A	・時間を守ったり、片づけをしたりするなど、学校でしっかりとしつけをしていく必要がある。	○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
○地域連携	○コミュニティスクールの推進	○各学年で2回以上、地域と連携した学習活動に取り組む。	・地域の各団体と連携し、学習活動を計画・実施する。 ・年間4回学校運営協議会を開催し、よりよい地域連携の在り方を検討する。	B	・計画的に学校運営協議会を開催し、意見交換を行った。給食試食や授業参観を行い、今後の学校運営に関する計画を立てることができた。	B	・各学年で計画的に地域へ老人クラブ・民生児童委員等との連携を図ることができた。特に、6学年で夢事業という新たな取組にも挑戦できたことは非常に良かった。新たな取組の夢事業せが継続してほしい。	A	・老人クラブや民生児童委員との連携ができることは非常によかったです。新たな取組の夢事業せが継続してほしい。	・教頭 ・教務主任

主な担当者

指導主任

向上コーディネー

●…県共通	○…学校独自	◎…志を高める教育
5 総合評価・ 次年度への展望	・評価項目の8割で最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって一年間取り組んだ成果である。 ・校内研究で提案授業や研修を行い、職員間でICT活用及び指導法の情報共有ができた。スキルアップタイムでICT活用の時間を全校で共通して取り組んだことで、児童の情報活用能力が向上した。令和7年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップタイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、教職員の指導力向上と児童の学力向上につながる教育実践を積み上げてきたい。 ・時間外の音声ガイダンス電話設定やアブリによる欠席連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校等時間が前年度比マイナスとなった。令和7年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。 ・いじめや児童間のトラブルなど、担任及び生徒指導主任等、組織で早期対応を行い、重大事案となることはなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようにしていく。 ・老人クラブや商工会の方などに講師に来ていただきたり、校内探検やスケッチ会で地域に出かけて学んだり、学校・地域が連携・協働しながら子供たちの成長を支える機会をつくることができた。令和7年度も学校運営協議会の協力を得ながら、さらなる連携・協働を進めていく。	